



TITLE:

II.研究所の概要

AUTHOR(S):

CITATION:

II.研究所の概要. 霊長類研究所年報 2006, 36: 3-22

ISSUE DATE:

2006-07-15

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/166324>

RIGHT:

II. 研究所の概要

1. はじめに

「年報」は、京都大学霊長類研究所の研究と教育等に関わる年次活動を詳述したものである。ここに前年度の活動を網羅した平成 18 年度の年報をお届けする。当該年度の活動の詳細が具体的な事項と数値によって記録されており、「自己点検報告書」という性格も兼ね備えたものだといえる。年次報告によって、研究者としての社会的説明責任を果たすのがこの年報発行の主旨だともいえるだろう。ただし、当該年度の活動報告だけでは不十分なので、毎年度、「研究活動」「教育活動その他」「共同利用研究」といった具体的な対象ごとに、通年の努力を検証する自己点検活動をおこなっている。それらについては、別途の報告書を参照していただきたい。以下に、平成 17 年度の諸活動をもとに現況を概説したい。

現在、霊長類研究所には約 40 名の教員がいて、霊長類を対象としたさまざまな研究に取り組んでいる。大学院生も約 40 名いる。大学院としての研究と教育は、京都大学理学研究科生物科学専攻に所属する「霊長類学系」として、他の動物学系・植物学系・生物物理学系とともに、4 系で協力して一緒に入試おこなうとともに、21 世紀 COE プログラムの研究拠点になっている。なお、上記の大学院生のなかには 7 名の外国人が含まれている。その出身も、韓国、中国、バングラデシュ、ミャンマー、スリランカ、フランスと多様だ。日本学術振興会の特別研究員 PD や非常勤研究員など博士学位を取得したいわゆるポスドクと呼ばれる研究者も約 14 名いる。受託研究員、研修員、研究生もいる。そうした研究者が、霊長類の総合的な研究を推進している。

研究所には、サル類の研究や飼育にかかわる獣医師や技術系職員、さらにはそうした研究と教育の全般を支えてくれる事務系職員がいる。研究支援推進員や教務補佐員や技術補佐員や事務補佐員などの非常勤職員も多数いて、それらの人々の力がなければ研究所の日々の営為が成り立たない。つまり、百数十名の所員が共に働き学ぶ場が霊長類研究所だといえる。

また研究所は、17 種類、約 800 個体のサル類を保有している。多様な霊長類研究を展開するうえで、これらのサル類の存在は欠かせない。しかし現在の愛知県犬山市官林のキャンパスは約 3.3 ヘクタールの広さしかない。手狭になったし、近隣は宅地化も進んでいる。

そこで、「第 2 キャンパス」を作る計画を研究所は永年にわたって模索してきた。「リサーチ・リソース・ステーション（略称 RRS）」と呼ぶ構想である。官林キ

ャンパスからほど遠くない場所に適地を求め、サル類をより自然に近い環境で飼育しつつ、新たな研究を展開することを目的としている。RRS 計画は京大ならびに文部科学省の支援を受け、平成 17 年度にも着工の運びとなった。犬山市や地元住民の方々の理解と支援をもとに、第 2 キャンパスで展開する RRS 計画が順調に進むよう努力したい。

霊長類研究所の研究活動は大きく 2 つの柱からなっている。研究所そのものが有する研究部門・付属施設の活動と、全国共同利用という枠組みでなされる共同研究である。

研究部門としては、平成 5 年度におこなわれた改組によって、4 つの研究部門に大きくまとめられた。進化系統研究部門、行動神経研究部門、社会生態研究部門、分子生理研究部門、の 4 つである。4 つの部門のミッションは、今日的な表現でかんたんにいえば、「からだ」「こころ」「社会」「ゲノム」とラベルできるかもしれない。そうした人間という存在の諸相を、現生ならびに化石となった霊長類を対象におこなう多様な研究から、総合的に理解しようという試みである。また平成 17 年度から、「流動部門」と呼ぶ新たな試みを導入した。時限プロジェクトである。「多様性保全研究分野」という名称の分野を流動部門のなかに立ち上げ、生物多様性とその保全に焦点をあてた研究を開始した。

全国共同利用としての研究は、公募によって毎年だいたい 100 件ほどの共同研究がおこなわれている。それと平行して、個々の研究課題を統合する試みとして、毎年 5-8 件程度（平成 17 年度は 8 件）の共同利用研究会を開催してきた。

霊長類研究所の保有する付属施設として、ニホンザル野外観察施設と人類進化モデル研究センターの 2 つがある。

ニホンザル野外観察施設は、日本に固有な霊長類であるニホンザルの野外研究をもとにその生息地を含めた保全を目的とした施設である。その一部として宮崎県・幸島の対岸に、幸島観測所がある。そこに 2 人の研究所職員が常駐して、幸島群と呼ばれる「イモ洗い文化」で有名な野生ニホンザルの調査を継続している。本年で 53 年目となる継続研究は、野生動物の個体群を対象とした調査として最も歴史の長いもののひとつといえるだろう。

人類進化モデル研究センターは、研究所の保有するサル類を一元的に管理し運営し、多様な研究のインフラストラクチャーの形成を担っている。実験動物科学という視点からの研究を推進するとともに、動物福祉の立場から環境エンリッチメントにも意を注いでいる。平成

16 年度を初年度とする「中期目標・中期計画」の最重要の柱として、研究所は RRS 計画を掲げた。人類進化モデル研究センターがその推進の核となっている。霊長類研究所が、その研究成果を示すとともに、飼育される動物の環境にも最も配慮の行き届いた施設になるよう、これからも努力していきたい。

霊長類研究所の研究は、運営費交付金と呼ばれる国からの資金でまかなわれている。それに加えて、個々の研究者が申請する科学研究費補助金などの競争的資金によっている。そうした資金の現状と収支、それらの研究成果について、本年報に詳述しているのでご覧いただきたい。

霊長類研究所が付託された、比較的多額の外部資金としては、以下の3つの事業が平行しておこなわれている。「NBR 受託研究」、「21COE プログラム」、「HOPE 事業」と略称するものである。NBR 受託研究は、「ニホンザル・バイオ・リソース」の頭文字をとって NBR と呼ばれるもので、文部科学省すなわち国の推進するライフサイエンスの研究基盤整備にかかわる事業である。21COE プログラムは、京都大学大学院理学研究科の生物科学専攻の一部として霊長類研究所が担う生物多様性にかんする研究である。HOPE 事業は、日本学術振興会の先端研究拠点事業で、先端的研究の国際ネットワークづくりの事業である。いずれも、本報告書で、独立の1項を立てて内容を詳述しているので、平成 17 年度の具体的な活動についてはそれらを参照されたい。

最後になったが、霊長類研究所のおこなっている研究と教育に加えて、社会的な責任と国際的な使命について言及したい。本研究所は、霊長類の総合的な研究をおこなっている。その研究・教育活動を一般の方々に理解していただくために、研究所としてホームページ (<http://www.pri.kyoto-u.ac.jp>) を運営し、また一般向けの著作やマスメディアを通じた活動もおこなっている。さらに、公開講座、東京講演会、市民公開日、オープン・キャンパスなどの機会を設け、広報活動に取り組んでいる。こうした総合的な霊長類学の研究拠点は、国際的にみても珍しい。霊長類研究所という名前で呼ばれるものとしてはアメリカのヤーキス霊長類研究所が古い歴史をもっている。ドイツには、1997 年にマックスプランク進化人類学研究所が設立され、大型類人猿の研究を中心に人類進化の研究をおこなっている。こうした外国の研究施設と協力関係を深めつつ、わが国独自の研究を展開し、国際的に発信していくことが求められている。

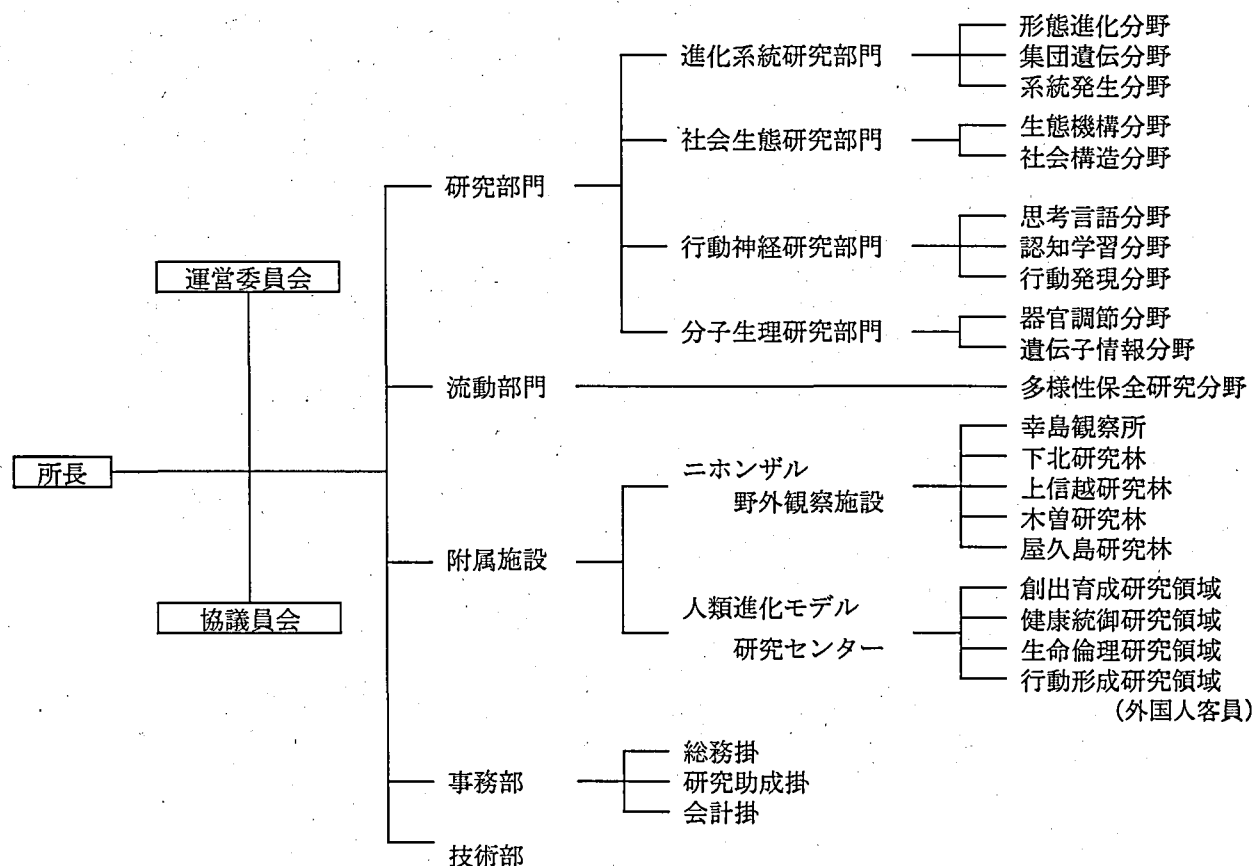
平成 17 年度末をもって、茂原信生、森明雄、大澤秀行の3教員が退職された。長く技術職員を勤めた三輪隆子さんも退職された。これまでのご苦勞を多とし、所

員一同を代表して深く感謝申し上げたい。とくに、茂原先生は所長としてその任をまっとうされ、RRS 事業を実現してくださった。末尾になったが、こうした方々の新しい生活の展開とますますの健康を祈念したい。一方で、平成 17 年度には香田啓貴、今井啓雄の2教員を迎え、さらに 18 年度初頭から宮地重弘、宮部貴子の2教員が加わった。霊長類研究所は、新しい時代を迎えようとしている。

(文責：松沢哲郎)

2. 組織

(1) 組織の概要 (2006年3月30日現在)



所長	茂原 信生	
運営委員	杉山 幸丸	(東海学園大学人文学部 教授)
(順不同)	諏訪 元	(東京大学総合研究博物館 助教授)
	長谷川 壽一	(東京大学大学院総合文化研究科 教授)
	西田 利貞	(日本モンキーセンター 所長)
	高畑 由紀夫	(関西学院大学総合政策学部 教授)
	山極 壽一	(京都大学大学院理学研究科 教授)
	松沢 哲郎	(霊長類研究所 教授)
	景山 節	(霊長類研究所 教授)
	林 基治	(霊長類研究所 教授)
	川本 芳	(霊長類研究所 助教授)
事務長	井山 有三	

職員の内訳

教授	助教授	助手	外国人研究員	事務職員	技術職員	小計	非常勤(時間)	合計
11	12	13	1	8	11	56	69	125

大学院生, 研究者等の内訳

博士課程	修士課程	外国人共同研究者	研修員	特別研究員	受託研究員	研究生	合計
22	15	1	1	8	1	1	49

(2) 所員一覧 (2005 年度)

形態進化分野 Fax:0568-61-5775

遠藤秀紀	教授
濱田稔	助教授
毛利俊雄	助手
國松豊	助手
早川清治	技術職員
茶谷薫	教務補佐員
水谷典子	事務補佐員
権田絵里	大学院生
山本亜由美	大学院生
Suchinda, Malaivijitnond	外国人研究員
Urasopon, Nontakon	招へい外国人学者
Kijkuokool, Pisamai	招へい外国人学者

集団遺伝分野 Fax: 0568-62-9554

川本芳	助教授
田中洋之	助手
川本咲江	技能補佐員
澤村育栄	事務補佐員
川合静	大学院生

系統発生分野 Tel/Fax: 0568-63-0536

茂原信生	教授
相見満	助教授
高井正成	助手
本郷一美	助手
佐藤阿佐子	事務補佐員
鏑本武久	学振特別研究員
Thaung Htike	大学院生
鈴木智起	大学院生
Zin Maung Maung Thein	大学院生
Auetrakulvit, Prasit	外国人共同研究員

生態機構分野 Fax: 0568-63-0565

Huffman, Michael A.	助教授
橋本千絵	助手
田代靖子	非常勤研究員
座馬耕一郎	学振特別研究員
半谷吾郎	学振特別研究員

早川祥子	学振特別研究員
広瀬しのぶ	事務補佐員
Nahallage, Charmalie A.D.	大学院生
Jaman, Mohammad F.	大学院生
Zeller, Anne Catherine	招へい外国人学者

社会構造分野 Fax: 0568-63-0564

森明雄	教授
大澤秀行	助教授
杉浦秀樹	助手
真方栄子	事務補佐員
金子陽子	技術補佐員
郷もえ	大学院生
鈴木真理子	大学院生

思考言語分野 Fax: 0568-62-2428

松沢哲郎	教授
友永雅己	助教授
田中正之	助手
井上紗奈	教務補佐員
落合(大平)知美	教務補佐員
野上悦子	教務補佐員
戸塚洋子	教務補佐員
高島友子	技術補佐員
堀鈴香	技術補佐員
酒井道子	事務補佐員
打越万喜子	学振特別研究員
大橋岳	大学院生
林美里	大学院生
松野響	大学院生
Martinez, Laura	大学院生
山本真也	大学院生
佐藤義明	大学院生
Poti, Patrizia	外国人共同研究員
Humle, Tatyana	外国人共同研究者
Crast, Jeccica L.	外国人共同研究者
Granier, Nicolas Jean-Marie	外国人共同研究者

認知学習分野 Fax: 0568-62-9552

正高信男	教授
------	----

松井智子	助教授
南雲純治	技術職員
加藤朱美	技術補佐員
澤田玲子	教務補佐員
新谷さとみ	派遣社員
久保(川合)南海子	学振特別研究員
介岡康治	大学院生
親川千紗子	大学院生
木場礼子	大学院生
平石博敏	大学院生
山口智恵子	大学院生
福島美和	大学院生
土居裕和	特別研究学生
橋本亜井	研究生
Lemasson, Alban	外国人共同研究者
Jubin, Ronan	招へい外国人学者

行動発現分野 Fax: 0568-63-0563

三上章允	教授
脇田真清	助手
三輪隆子	技術職員
井上雅仁	教務補佐員
鈴木冬華	事務補佐員
額額大輔	学振特別研究員
猿渡正則	大学院生
半田高史	大学院生
石川直樹	大学院生
平井大地	大学院生

器官調節分野 Tel/Fax: 0568-63-0576

林基治	教授
大石高生	助教授
清水慶子	助手
國枝匠	技術補佐員
金武ひろみ	事務補佐員
伊藤(大塚)麻里子	学振特別研究員
託見健	大学院生

遺伝子情報分野 Fax: 0568-62-9557

平井啓久	教授
今井啓雄	助教授
中村伸	助手

浅岡一雄	助手
光永総子	教務補佐員
平井百合子	技能補佐員
宮田正代	事務補佐員
山内英典	技術補佐員
高木佐知子	技術補佐員
五島緑	技術補佐員
早矢仕みか	技術補佐員
橋本寛之	技術補佐員
和田晃	受託研究員
田中美希子	大学院生
Jeong, A-Ram	大学院生
村田貴朗	大学院生
Kim, Heui-Soo	外国人研究員
Trisomboon, Hataitip	招へい外国人学者

多様性保全研究分野

香田啓貴	助手
天野(早野)あづさ	非常勤研究員

ニホンザル野外観察施設

Fax: 0568-62-9575

渡邊邦夫	教授(生態)
室山泰之	助教授
鈴木克哉	教務補佐員
阿部恵	事務補佐員
船越美穂	研修員
山田彩	大学院生
Rizaldi	大学院生
森正樹	大学院生
張鵬	大学院生
神田恵	大学院生
幸島観察所	
Tel: 0987-77-0045/Fax: 0987-77-0251	
冠地富士男	技術職員
鈴村崇文	技術職員
岩松ヒロ子	労務補佐員
一井光美	労務補佐員
一井美恵子	労務補佐員

人類進化モデル研究センター

Fax: 0568-62-9559

松林清明	教授
景山節	教授
上野吉一	助教授
鈴木樹理	助教授

後藤俊二	助手
熊崎清則	技術職員
阿部政光	技術職員
釜中慶朗	技術職員
前田典彦	技術職員
加藤朗野	技術職員
森本真弓	技術職員
兼子明久	技術職員
竹元博幸	非常勤研究員
上野寛子	教務補佐員
安江美雪	技術補佐員
小林陽子	技術補佐員
猪飼良子	技術補佐員
三輪宣勝	技能補佐員
千田友和	技能補佐員
山内志乃	技能補佐員
渡邊祥平	技能補佐員
梅田せつ子	技能補佐員
社本真理子	技能補佐員
近藤ひろ子	技能補佐員
葉栗和枝	技能補佐員
伊藤和子	技能補佐員
立木昌子	技能補佐員
六鹿きよみ	技能補佐員
朱宮幸子	技能補佐員
熊谷かつ江	労務補佐員
横江実穂子	技能補佐員
堀内ゆかり	技能補佐員
大澤みどり	技能補佐員
野村太佑	技術補佐員
黒川清澄	技能補佐員
木村俊治	技能補佐員
津川則子	技能補佐員
伊藤弥生	技能補佐員
小澤美香	技能補佐員
Srikantha	外国人研究員
Sachithanantham	
Kang Kyung Hwa	招へい外国人学者
Leo, Natalie Pui Lin	外国人共同研究者

事務部 Fax: 0568-63-0085

井山有三	事務長
------	-----

総務掛

松永裕之	掛長
西村元一	事務職員

常田和江	事務補佐員
松澤美津子	事務補佐員
横江美奈	事務補佐員
菅原喜美子	事務補佐員
後藤知子	事務補佐員
笹倉鹿野	派遣社員
井本安志	労務補佐員

研究助成掛

高橋徹	掛長
原田重代	事務補佐員
大津賀幹子	派遣社員
図書室	
高井一恵	事務職員
池田早苗	事務補佐員
安江万里子	事務補佐員
井上香	事務補佐員
宿泊棟	
安東和子	労務補佐員
佐々木啓子	労務補佐員
多目的ホール	
中村陽子	派遣社員
日比野恵美子	労務補佐員
井戸畑陽子	労務補佐員
敷島美香	労務補佐員

会計掛

佐賀祐次郎	掛長
戸嶋充雄	主任
浅井孝夫	事務職員
小川幸枝	事務補佐員
小野範子	事務補佐員

情報検索室

福富憲司	
------	--

自己点検評価委員会

加藤みどり	事務補佐員
-------	-------

教員と各掛のメールアドレスは、
下記ホームページをご覧ください。

<http://www.pri.kyoto-u.ac.jp/info/soshiki-j.htm>

(3) 大学院生

2005 年度 生物科学専攻 (盤長類学系)

氏名	学年	指導教員
猿渡正則	D5	三上章允
権田絵里	D4	濱田穠
山本亜由美	D4	濱田穠
大橋岳	D4	松沢哲郎
田中美希子	D4	平井啓久
郷もえ	D3	森明雄
倉岡康治	D3	正高信男
林美里	D2	松沢哲郎
松野響	D2	友永雅己
託見健	D2	林基治
山田彩	D2	渡邊邦夫
親川千紗子	D2	正高信男
檜垣小百合(休学中)	D2	上野吉一
Jeong A-Ram	D2	平井啓久
東濃篤徳	D2	景山節
Rizaldi	D1	渡邊邦夫
木場礼子	D1	正高信男
Thaung, Htike	D1	茂原信生
半田高史	D1	三上章允
平石博敏	D1	正高信男
Martinez, Laura	D1	松沢哲郎
Nahallage, Charmalie.A.D. (H17.10 で D1)	M2	Huffman, Michael A.
森正樹	M2	渡邊邦夫
鈴木真理子	M2	森明雄
山本真也	M2	松沢哲郎
鈴木智起 (H17.7～休学)	M2	茂原信生
石川直樹	M2	三上章允
山口智恵子	M2	正高信男
張鵬	M2	渡邊邦夫
川合静	M1	川本芳
Zin Maung Maung Thein	M1	茂原信生
神田恵	M1	渡邊邦夫
佐藤義明	M1	松沢哲郎
平井大地	M1	三上章允
福島美和	M1	正高信男
村田貴朗	M1	平井啓久
Jaman, Mohammad F.	M1	Huffman, Michael A.

(4) 研究支援推進員

氏名	採用期間
猪飼良子	2005 年 4 月 1 日～2006 年 3 月 31 日
梅田せつ子	2005 年 4 月 1 日～2006 年 3 月 31 日
葉栗和枝	2005 年 4 月 1 日～2006 年 3 月 31 日
小林陽子	2005 年 4 月 1 日～2006 年 3 月 31 日
熊谷かつ江	2005 年 4 月 1 日～2006 年 3 月 31 日
近藤ひろ子	2005 年 4 月 1 日～2006 年 3 月 31 日
渡邊祥平	2005 年 4 月 1 日～2006 年 3 月 31 日

3. 予算概況

予算概要

(金額の単位はすべて千円)

運営費交付金	人件費	559,622
	物件費	184,522
	物件費（特別教育研究経費）	83,542
	施設整備費補助金	0
	計	827,686
産学連携等研究費	受託研究費（9件）	64,640
	受託事業費（1件）	557
	間接経費	23,228
	全学共通経費	337
	計	88,762
科学研究費補助金（38件）		134,300
21世紀COE補助金（1件）		41,000
厚生労働省科学研究費補助金（1件）		500
日本学術振興会先端研究拠点事業（1件）		15,075
寄附金（7件）		16,492
合計		1,123,815

(1) 2005年度（平成17年度）受託研究費 内訳一覧

研究種別	研究代表者	金額	研究課題
受託研究費	平井啓久	2,000	精神神経疾患の解明のための霊長類モデル開発に関する研究（ニホンマーモセットの血液キメラに関わる細胞遺伝学的研究）
受託研究費	松林清明	50,850	ニホンザルの繁殖と供給に関する調査研究
受託研究費	室山泰之	200	室生村に生息する野生ニホンザルの生態研究
受託研究費	室山泰之	3,500	獣害回避のための難馴化忌避技術と生息適地への誘導手法の開発（サルに対する難馴化忌避技術を含めた持続的な被害防除手法の開発；ニホンザルの忌避行動誘発刺激への馴化特性の解明と難馴化防除技術の開発）
受託研究費	室山泰之	3,190	野生鳥獣による農林業被害軽減のための農林生態系管理技術の開発（農林業被害地におけるサルの行動管理技術の開発）
受託研究費	川本芳	3,000	野生鳥獣による農林業被害軽減のための農林生態系管理技術の開発（サル地域個体群維持に関わる遺伝的構造と個体群管理のための遺伝的モニタリング法の研究）
受託研究費	正高信男	700	言語習得の身体的基盤の認知神経科学的研究
受託研究費	正高信男	800	学習困難の脳内機序の解明と教育支援プログラムの開発・評価
受託研究費	大石高生	400	脳脊髄損傷からの機能回復における軸索構造の変化
合計	9件	64,640	

※金額は、間接経費を除く

(2) 2005 年度 (平成 17 年度) 受託事業費 内訳一覧

研究種別	研究代表者	金額	研究課題
受託研究員	中村伸	557	サルモデルでのバイオメディカル研究
合計	1 件	557	

(3) 2005 年度 (平成 17 年度) 文部科学省科学研究費補助金 内訳一覧

研究種別	研究代表者	金額	研究課題
特定領域	清水慶子	2,100	霊長類の脳の形態的および機能的性分化の特性
特定領域	本郷一美	3,700	西アジア先史時代から都市文明社会への生業基盤の変化に関する動物・植物考古学的研究
特別推進	松沢哲郎	60,200	思考と学習の霊長類的基盤
基盤研究(A)	濱田穰	6,800	ヒトを含む霊長類におけるロコモーションの発達・加齢
基盤研究(B)	本郷一美	4,300	動物遺存体分析による西アジアの Neolithization (新石器化) 過程の解明: 家畜化の進行と遊牧の発生
基盤研究(B)	川本芳	2,800	生物多様性への移入種の影響: 和歌山のタイワンザル交雑群に関する総合的研究
基盤研究(B)	遠藤秀紀	4,200	インドシナ・スンダシエルフ領域における脊椎動物多様化機構の生物地理学的解析
基盤研究(B)	三上章允	4,100	テナガザル視物質遺伝子の多様性に関する研究
基盤研究(B)	茂原信生	3,600	東南アジア地域における第三紀霊長類の進化的研究
基盤研究(B)	友永雅己	3,300	動的表象の形成と知識-知覚の相互作用: その比較認知科学的検討
基盤研究(B)	茂原信生	2,100	日本犬の時代的変遷の総括と, 日本人の変遷との関係についての研究
基盤研究(B)	濱田穰	4,500	インドシナ半島におけるマカク属の進化: アカゲザルとカニクイザルを主として
基盤研究(B)	高井正成	1,600	アジア地域におけるオナガザル上科の進化に関する古生物学的研究
基盤研究(C)	M.A.Huffman	1,000	霊長類の自己治療行動-食物選択と民族生薬学文献の研究と共有データベース作成
基盤研究(C)	國松豊	700	化石から見たヒト上科の出アフリカとユーラシアへの拡散
基盤研究(C)	正高信男	2,000	コミュニケーションにおける「心の理論」と社会的認知の相互的発達の検証
基盤研究(C)	田中洋之	600	ゲノムタイピングによる霊長類集団の遺伝的多様性の評価とその応用
基盤研究(C)	橋本千絵	800	野生チンパンジーとボノボの行動レパートリーの比較による文化的行動の研究
基盤研究(C)	清水慶子	1,200	大豆イソフラボンの生殖内分泌系への作用: サルをモデルとした検討
基盤研究(C)	遠藤秀紀	3,400	霊長類遺体の総体的生物資源情報化のためのアジア協力機構の基盤形成
基盤研究(C)	松井智子	900	機能語の習得に見る「心の理論機構」の発達-新しい認知モデルの実証

基盤研究(C)	高井正成	700	新生代後半のユーラシア大陸における化石霊長類の進化に関する総合的研究
萌芽研究	遠藤秀紀	3,200	霊長類における全身構造の完全三次元デジタル化と運動機能の力学モデル構築
若手(B)	杉浦秀樹	2,000	ニホンザルにおける個体群動態：密度効果と群間・群内競合の検討
特別研究員奨励費	伊藤(大塚) 麻里子	1,100	内分泌攪乱物質が雄マカクザルの精子形成に及ぼす影響－ヒト精子形成障害モデルの確立
特別研究員奨励費	座馬耕一郎	1,100	野生チンパンジーにおける利他行動の進化
特別研究員奨励費	鏑本武久	1,100	ポンダウン層の哺乳類化石の記載と東アジアの新生代前半における哺乳類の進化
特別研究員奨励費	早川祥子	1,100	ニホンザルの群れ間遺伝子交流とその進化
特別研究員奨励費	半谷吾郎	1,100	霊長類の社会構造の進化に環境と系統が与える影響
特別研究員奨励費	香田啓貴	900	ニホンザルにおける音声応答の成立要因：ヒト音声言語との比較研究
特別研究員奨励費	大橋岳	900	野生チンパンジーにおける離合集散性の解明－GPSを用いた複数個体同時追跡の試み－
特別研究員奨励費	林美里	800	チンパンジーの対象操作と道具使用における認知発達
特別研究員奨励費	松野響	900	チンパンジーにおける視覚的運動情報の処理とその理解：ヒトの視覚認識との比較研究
特別研究員奨励費	瀬瀬大輔	900	レーザー照射によるサル(V1-LGN)フィードバック経路のみの選択的破壊技術の確立
特別研究員奨励費	打越万喜子	1,100	思春期テナガザルの異性の歌に対する感受性－感覚性強化の認知実験－
特別研究員奨励費	川合(久保) 南海子	1,100	加齢にともなう表象の操作能力の変化と脳機能に関する実験的研究
特別研究員奨励費	正高信男	1,200	ニホンザルとテナガザルの音声コミュニケーションに対する社会的影響について
特別研究員奨励費	景山節	1,200	霊長類とシラミと共生細菌、およびシラミにより感染する細菌の進化史
合計	38 件	134,300	

※金額は、間接経費を除く

(4) 2005 年度 (平成 17 年度) 21 世紀 COE 研究拠点形成費補助金 内訳一覧

研究種別	研究代表者	金額	研究課題
21 世紀 COE 研究拠点形成費	正高信男	41,000	生物多様性研究の統合のための拠点形成
合計	1 件	41,000	

(5) 2005 年度（平成 17 年度）厚生労働省科学研究費補助金 内訳一覧

研究種別	研究代表者	金額	研究課題
厚生労働省科学研究費補助金	鈴木樹理	500	霊長類を用いたアルツハイマー病に対する経口治療薬の開発とその臨床応用の試み
合計	1 件	500	

(6) 2005 年度（平成 17 年度）日本学術振興会先端研究拠点事業 内訳一覧

研究種別	研究代表者	金額	研究課題
日本学術振興会先端研究拠点事業	松沢哲郎	15,075	人間の進化の霊長類的起源
合計	1 件	15,075	

※金額は、間接経費を除く

(7) 2005 年度（平成 17 年度）寄附金 内訳一覧

補助金等種別	研究代表者	金額	研究課題
(財)不二たん白質研究振興財団	中村伸	3,920	ダイズ食品・成分による加齢性機能障害および生活習慣病の予防作用：サルモデルでのゲノム医生物学的研究
松井智子	松井智子	3,360	ヒト言語発達データベースの作成
(財)中山科学振興財団	脇田真清	784	霊長類に関する総合的研究
ジェイ・ワン・プロダクツ(株)	中村伸	2,940	サルモデルでの機能性食品の評価試験系に関する研究
(株)日本臨床医学研究所	中村伸	2,940	サルモデルでのバイオメディカル研究
(財)光科学技術研究振興財団	今井啓雄	1,568	光科学技術の研究に対する助成
(財)テルモ科学技術振興財団	今井啓雄	980	「ノックインマウスを用いた生体内高速光学低侵襲測定的基础研究」に対する研究助成
合計	7 件	16,492	

※寄附金額は、全学共通経費（2%）を控除した金額

4. 図書

霊長類学の研究成果を網羅する方針で図書を収集しています。特に霊長類学関係論文の別刷は年間 2500 件あまりを受け入れ、『霊長類学別刷コレクション』として閲覧に供しています。書籍については全所員からの推薦を受け付け、選定の参考にしています。

(1) 蔵書数

2006 年 3 月末現在、本研究所図書室に所蔵されている資料は、以下の通りです。

和書：7,127 冊（製本雑誌も含む）

洋書：15,907 冊（製本雑誌も含む）

霊長類学関連別刷（霊長類学別刷コレクション）：80,044 点

(2) 資料の所蔵検索

図書室で所蔵している図書・雑誌はすべて【京都大学 OPAC】で検索できます。

【京都大学 OPAC】にアクセスし、[詳細検索画面] - [所蔵館] の欄に [66 霊長研] と入れると、霊長類研究所の蔵書のみヒットします。

詳しくは京都大学図書館機構のホームページをご覧ください。

<http://kensaku.libnet.kulib.kyoto-u.ac.jp/>

霊長類学関連別刷（霊長類学別刷コレクション）は【霊長類学文献索引データベース】で検索できます。

霊長類研究所ホームページの topics【霊長類学文献索引データベース】をご覧ください。

<http://www.pri.kyoto-u.ac.jp/cgi-bin/library/books.cgi>

(3) 霊長類研究所図書室利用規程

I. 開室時間と休室

1. 開室時間

平日：9 時から 17 時まで。

2. 休室

土曜日、日曜日、国民の祝祭日、年末・年始は休室とする。

その他の臨時休室は、その都度掲示する。

II. 閲覧

1. 閲覧者の資格

- 1) 本研究所の所員。
- 2) 本研究所の共同利用研究員。

3) 1), 2) 以外の、京都大学に所属する者で、所属図書施設の紹介のある者。

4) その他一般利用者。

2. 閲覧

1) 閲覧は所定の場所で行わなければならない。

2) 次の各号に掲げる場合においては閲覧を制限することができる。

(1) 当該資料に独立行政法人等の保有する情報の公開に関する法律（平成 13 年法律第 140 号。以下「情報公開法」という。）第 5 条第 1 号、第 2 号及び第 4 号に掲げる情報が記録されていると認められる場合における当該情報が記録されている部分。

(2) 当該資料の全部又は一部を一定の期間公にしないことを条件に個人又は情報公開法第 5 条第 2 号に規定する法人等から寄贈又は寄託を受けている場合における当該期間が経過するまでの間。

(3) 当該資料の原本を利用させることにより当該原本の破損若しくはその汚損を生じるおそれがある場合又は当該資料が現に使用されている場合。

III. 貸出及び返却

1. II の 1 の 1) の該当者及び、2) のうち予め利用者カードを提出した者は、下記に従い図書を借用できる。すべての借用資料は、原則として所外に持ち出すことはできない。

1) 借用資料の種類と借用方法

a. 単行本

(i) 単行本は 1 か月間借用できる。

(ii) 借用時には、ブックカード及び代本板用紙に必要事項を記入する。ブックカードは所定の箱に入れ、代本板用紙は代本板の背に挿入して、書架上の本のあった位置に置く。

b. 製本雑誌

(i) 製本雑誌は 3 日間借用できる。

(ii) 借用方法は単行本に準じる。

c. 未製本雑誌

(i) 未製本の雑誌は 15 時から翌朝 10 時までの間に限り借用できる。

(ii) 借用時には貸出カードに必要事項を記入する。

d. 別刷

(i) 別刷は開室時間中に図書室内でのみ利用できる。

(ii) 利用後は、返却台の箱に返却する。

e.他機関からの借用資料

(i) 他機関からの借用資料は、開室時間中の図書室内での利用に限る。

(ii) 利用後は図書係員に返却する。

- 2) 参考図書その他禁帯出扱いの図書は貸出さない。
- 3) 借用中の資料を転貸してはならない。
- 4) 再手続きをすることにより貸出期限の延長ができる。ただし、他に借用希望者がある時は、他を優先する。
- 5) 借用後の図書は返却台に返却する。

2. II の 1 の 3) の該当者は、所属の図書施設を通じて借用を依頼することができる。

- 1) 借用資料は単行本のみで、所属図書施設内での利用に限る。
- 2) 借用期限は 2 週間とするが、本研究所員からの要請があった場合には、借用期限内であっても、速やかに返却することとする。

IV. 総点検及び長期貸出

1. 定期的に図書の総点検を行う。この時は、貸出期限内外を問わず、すべての図書を返却する。
2. 総点検期間中、図書室を休室とすることがある。
3. 図書委員会により研究室等への備え付けが認められた時は、長期貸出扱いとする。長期貸出期間は 1 年で、長期貸出扱いの更新は総点検時に行う。

V. その他

1. 図書室資料の目録及びこの図書室利用規程については常時図書室に備え付ける。
2. 資料を紛失したり汚損した場合は、代本または相当の代金で補わなければならない。
3. 借用資料を期日までに返却しなかった場合、以後の貸出を一定期間停止されることがある。
4. 図書室内(書庫を含む)は禁煙とする。

附則

この規程は、平成 16 年 4 月 1 日から施行する。

平成 16 年 4 月 1 日制定

5. サル類飼育頭数・動態

2005 年（平成 17 年）度末飼育頭数

種名	頭数	種名	頭数
コモンマーモセット	21	アカゲザル	196
ワタボウシタマリン	27	タイワンザル	8
ヨザル	16	ブタオザル	1
リスザル	5	ボンネットザル	9
フサオマキザル	12	カニクイザル	46
ケナガクモザル	1	スラウエシマカク	1
ミドリザル	2	マントヒヒ	6
ミドリザル×パタスザル	1	アジルテナガザル	3
ニホンザル	325	チンパンジー	14
ニホンザル（NBR）※	68	合計	762

※ NBR（「ニホンザル」バイオリソースプロジェクト）の預託を受け飼育しているもの

2005 年（平成 17 年）度サル類動態表

区分 種名	増加		減少（死亡など）							
	出 産	導 入	実 験 殺	事 故 死	外 傷 死	呼 吸 器 系 疾 患	消 化 器 系 疾 患	感 染 症	そ の 他 ・ 剖 検 不 能 等	譲 渡
コモンマーモセット			2			1			2	
ワタボウシタマリン	1			1		1	1		1	
ニホンザル	39		24		3	3	5	1	5	
ニホンザル（NBR）	6				2	1	1	3	7	
アカゲザル	27		20			1	4	1	2	
タイワンザル							1			
カニクイザル	8		8				1			
ミドリザル							1			
マントヒヒ							1			
オオガラゴ									1	
チンパンジー						1				
アジルテナガザル								1		
小計	81	0	54	1	5	8	15	6	18	0
合計	81		107							

（数字はすべて頭数）

6. 資料

霊長類研究所が所蔵する資料は、骨格標本、液浸標本、化石模型などからなり、外部の研究者にも基本的にすべて公開されている。標本のほとんどはデータベース化されており、資料委員会の許可にもとづいて利用希望者に提供され、研究遂行上の必要に応じて貸し出しもおこなっている。他機関所蔵の資料との交換も受け入れている。

(1) 霊長類骨格資料(表 1)

現在、資料委員会のデータベースに登録された霊長類骨格標本は表 1 の通りである。その数は 7,000 点を超え、大部分はマカク類を中心とした旧世界ザルの標本である。その他に、新世界ザルの標本も約 1,400 点保有している。類人猿、および原猿類(+ツパイ)の標本は、それぞれ数十点ずつである。

(2) 霊長類以外の骨格標本(表 2)

霊長類以外にも、哺乳類を中心に約 1,400 点近い骨格標本を所蔵している。内訳は、タヌキ、キツネ、ツキノワグマ、テン、イタチ、イノシシ、シカ、カモシカなど日本産哺乳類が多い。日本産の野生哺乳類が減っている現在、これらは貴重な資料である。

骨格標本はすべて研究所新棟 4 階と本棟地下の骨格資料室において移動式標本架にならべて保管されている。標本は種ごとに分類され、種内では標本番号にしたがって配列されている。利用希望者は、資料室に設置されたコンピューター上で骨格標本データベースを検索することができる。データベース上で利用できる情報は、標本番号、種番号、属名、種名、登録日、性別、体重、座高、前胴長などである。

(3) 液浸標本

本棟地下の液浸資料室に各種霊長類のホルマリンもしくはアルコールで固定された液浸標本が数百点保管されており、共同利用研究者などを対象に、研究・教育目的で提供されている。これらについてもデータベース化が進められている。

(4) その他

以上の他に、被毛標本数十点が保有されている。

霊長類研究所資料委員会は国内外の多くの研究者がこれらの資料を利用して研究を進めることを希望しており、利用希望者の要請にできるだけ応えたいと考えている。そのため、上記のように研究所所蔵資料のデータベース化など利用環境の整備に努めており、毎年国内外の研究者らによって骨格標本や液浸標本が研究・教育用の資料として活用されている。標本の利用許可については、非破壊的な使用目的の場合は簡便な手続きで済むようにしているが、標本の破壊が必要だったり破損の恐れのある利用の際は資料委員会への十分な事前説明が必要である。

資料委員会は新しい標本の作製、受け入れもおこなっており、毎年標本数は増加している。資料を一層充実させるため、野外調査などの際に、霊長類その他の標本の採集にご協力いただきたい。

備考：資料委員会では、霊長類研究所資料室で登録・保管する他、霊長類標本に関するデータのみの登録も受け付けています。あるいは、標本管理者の移籍・退職などによって管理困難となった標本の取り扱いについても相談を受けます。霊長類研究所資料委員会までご連絡ください。

(平成 18 年度連絡先：endo@pri.kyoto-u.ac.jp)。

(文責：遠藤秀紀)

2004 年度 (平成 17 年度) 所蔵骨格資料

表 1 霊長類骨格資料

和名	学名	標本数
ホミノイド	Hominoidea	83
テナガザル属	<i>Hylobates spp.</i>	53
チンパンジー属	<i>Pan troglodytes</i>	24
ゴリラ属	<i>Gorilla gorilla</i>	5
オランウータン属	<i>Pongo pygmaeus</i>	1
旧世界ザル	Cercopithecoidea	5653
マカク属	<i>Macaca spp.</i>	3964
ラングール属	<i>Presbytis spp.</i>	176
コロブス属	<i>Colobus spp.</i>	362
コバナテングザル属	<i>Simias concolor</i>	132
グエノン属	<i>Cercopithecus spp.</i>	566
パタス属	<i>Erythrocebus patas</i>	16
マンガベイ属	<i>Cercocebus spp.</i>	16
ヒヒ属	<i>Papio spp.</i>	403
マンドリル属	<i>Mandrillus spp.</i>	18
新世界ザル	Ceboidea	1423
リスザル属	<i>Saimiri sciureus</i>	985
ヨザル属	<i>Aotus trivirgatus</i>	57
ティティ属	<i>Callicebus spp.</i>	49
ホエザル属	<i>Alouatta spp.</i>	49
クモザル属	<i>Ateles spp.</i>	8
ウーリークモザル属	<i>Brachyteles spp.</i>	3
ウーリーモンキー属	<i>Lagothrix spp.</i>	16
オマキザル属	<i>Cebus spp.</i>	84
サキ属	<i>Pithecia spp.</i>	13
ウアカリ属	<i>Cacajao calvus</i>	1
ゲルディモンキー属	<i>Callimico goeldi</i>	1
ピグミーマーモセット属	<i>Cebuella pygmaeus</i>	6
マーモセット属	<i>Callithrix spp.</i>	59
タマリン属	<i>Saguinus spp.</i>	86
ライオンタマリン属	<i>Leontopithecus rosalia</i>	6
原猿類 (含ツパイ)	Prosimii & Tupaia	67
ツパイ属	<i>Tupaia spp.</i>	43
オオツパイ属	<i>Lyonogale spp.</i>	1
キツネザル属	<i>Lemur spp.</i>	6
エリマキキツネザル属	<i>Varecia spp.</i>	2
スローロリス属	<i>Nycticebus spp.</i>	7
ポットー属	<i>Perodicticus spp.</i>	1
ガラゴ属	<i>Galago spp.</i>	6
メガネザル属	<i>Tarsius spp.</i>	1
総計		7226

表 2 その他の骨格資料

和名	学名	標本数
食肉目	Carnivora	912
イヌ科	<i>Canidae</i>	552
ネコ科	<i>Felidae</i>	23
クマ科	<i>Ursidae</i>	132
アライグマ科	<i>Procyonidae</i>	5
イタチ科	<i>Mustelidae</i>	180
ジャコウネコ科	<i>Viverridae</i>	20
奇蹄目	Perissodactyla	8
ウマ科	<i>Equidae</i>	6
バク科	<i>Tapiridae</i>	2
偶蹄目	Artiodactyla	349
ウシ科	<i>Bovidae</i>	50
シカ科	<i>Cervidae</i>	38
イノシシ科	<i>Suidae</i>	257
ペッカリー科	<i>Tayassuidae</i>	3
不明	<i>indet.</i>	1
齧歯目	Rodentia	68
ネズミ科	<i>Muridae</i>	22
リス科	<i>Sciuridae</i>	33
テンジクネズミ科	<i>Caviidae</i>	3
ヌートリア科	<i>Myocastoridae</i>	1
ヤマアラシ科	<i>Hystriidae</i>	1
オマキヤマアラシ科	<i>Erethizontidae</i>	1
カピバラ科	<i>Hydrochoeridae</i>	1
パカ科	<i>Agoutidae</i>	2
不明	<i>indet.</i>	4
ウサギ目	Lagomorpha	10
ウサギ科	<i>Leporidae</i>	9
ナキウサギ科	<i>Ochotonidae</i>	1
食虫目	Insectivora	1
モグラ科	<i>Talpidae</i>	1
有袋目	Marsupialia	6
オポッサム科	<i>Didelphidae</i>	2
ウォンバット科	<i>Vombatidae</i>	1
カンガルー科	<i>Macropodidae</i>	2
クスクス科	<i>Phalangeridae</i>	1
貧歯目	Edentata	2
フタユビナマケモノ科	<i>Megalonychidae</i>	2
長鼻目	Proboscidea	1
クジラ目	Cetacea	9
マイルカ科	<i>Delphinidae</i>	9
鰐脚目	Pinnipedia	16
アシカ科	<i>Otariidae</i>	14
哺乳類・計		1382
爬虫類		4
魚類		1
総計		1387

7. 人事異動

所属分野等	職名	異動		内容	備考
		氏名	年月日		
野外施設	所長	茂原信生	2005/4/1	併任	H18.3.31 まで
遺伝子情報	施設長	M.A.Huffman	2005/4/1	併任	H19.3.31 まで
認知学習	教授	平井啓久	2005/4/1	昇任	センター助教授より
生態機構	助教授	松井智子	2005/4/1	採用	国際基督教大学準教授より
※センター	教授	渡邊邦夫	2005/6/1	昇任	野外施設助教授より
多様性保全	助手	後藤俊二	2005/6/30	辞職	日本野生動物研究所研究員へ
※センター	助手	香田啓貴	2005/7/1	採用	京都大学大学院理学研究科 D3 より
遺伝子情報	センター長	景山節	2005/10/1	併任	H19.9.30 まで
野外施設	助教授	今井啓雄	2005/12/16	昇任	大学院理学研究科助手より
系統発生	助教授	室山泰之	2006/2/1	昇任	野外施設助手より
系統発生	助手	本郷一美	2006/3/31	辞職	総合研究大学院大学助教授へ
社会構造	教授	茂原信生	2006/3/31	定年	
社会構造	教授	森明雄	2006/3/31	定年	
社会構造	助教授	大澤秀行	2006/3/31	定年	

※センター：人類進化モデル研究センター

8. 海外渡航

所属	氏名	種別	期間	目的国	目的
思考言語	松沢哲郎	出張	2005/4/16～4/22	アメリカ合衆国	IUCN 国際自然保護連合会議出席及び資料収集
形態進化	濱田穰	出張	2005/4/27～5/11	タイ王国 ミャンマー連邦	研究打ち合わせ・マカク分布と生息実態調査
形態進化	濱田穰	出張	2005/5/22～5/30	アメリカ合衆国	第 15 回国際比較内分泌学会出席・発表
生態機構	橋本千絵	研修	2005/5/12～5/24	ウガンダ共和国	野生チンパンジーの生態学的調査
形態進化	遠藤秀紀	出張	2005/5/20～6/2	ドイツ連邦共和国	標本資料調査
系統発生	本郷一美	出張	2005/5/21～6/3	トルコ共和国	遺跡出土動物骨資料の同定と計測・調査成果報告会出席
認知学習	正高信男	研修	2005/5/22～5/28	フィンランド共和国	研究動向調査
系統発生	本郷一美	出張	2005/6/11～7/4	ドイツ連邦共和国 英国	遺跡出土骨の同定と計測・研究打ち合わせ
生態機構	M.A.Huffman	出張	2005/6/14～6/21	英国	国際学術大会参加・発表
行動発現	三上章允	出張	2005/6/25～6/30	インドネシア共和国	テナガザルサンプル採取及び行動実験に関する研究打ち合わせ
集団遺伝	田中洋之	出張	2005/6/29～7/16	マレーシア	研究連絡及び調査打ち合わせ・調査及び試料収集
認知学習	松井智子	出張	2005/7/1～7/31	英国・イタリア共和国・ドイツ連邦共和国	学会出席・研究打ち合わせ・情報収集

所属	氏名	種別	期間	目的国	目的
思考言語	松沢哲郎	研修	2005/7/2～7/10	イタリア共和国	国際会議「数の処理の神経科学」にて講演及び資料収集
形態進化	濱田穰	出張	2005/7/10～8/7	ラオス人民民主主義共和国・ベトナム社会主義共和国・タイ王国	マカク分布と生息実態調査
野外施設	渡邊邦夫	出張	2005/7/18～8/2	インドネシア共和国	野生ザルの野外調査
形態進化	國松豊	出張	2005/7/21～9/20	ケニア共和国 ウガンダ共和国	東アフリカ化石霊長類調査・野生チンパンジーのロコモーション観察
器官調節	清水慶子	出張	2005/7/22～8/1	カナダ	38th SSR Annual Meeting 出席・発表・研究打ち合わせ
センター	上野吉一	出張	2005/7/25～8/7	アメリカ合衆国	第7回国際環境エンリッチメント学会参加・資料収集及び施設見学
系統発生	本郷一美	出張	2005/8/13～10/1	トルコ共和国 ヨルダン王国	遺跡発掘調査
思考言語	松沢哲郎	研修	2005/8/17～8/25	オーストリア共和国	ヨーロッパフォーラムアルプバッハ 2005 にて講演
思考言語	友永雅己	出張	2005/8/19～8/28	ハンガリー共和国	第24回国際動物行動学会出席及び発表・資料収集
生態機構	橋本千絵	出張	2005/8/21～9/3	ウガンダ共和国	チンパンジーの野外調査及び研究連絡
遺伝子情報	浅岡一雄	研修	2005/8/31～9/3	大韓民国	研究連絡
遺伝子情報	平井啓久	研修	2005/8/31～9/4	アメリカ合衆国	フィラリア/住血吸虫ゲノム合同会議
生態機構	M.A.Huffman	研修	2005/9/1～9/27	イタリア共和国 ドイツ連邦共和国 アメリカ合衆国	国際学術大会参加・発表
遺伝子情報	Kim, Heui-Soo	研修	2005/9/5～9/15	大韓民国	韓国ゲノム学会出席・発表・研究連絡
多様性保全研究	香田啓貴	出張	2005/9/12～11/30	インドネシア共和国	野外調査及び研究連絡
遺伝子情報	平井啓久	出張	2005/9/12～10/4	インドネシア共和国	野外調査・試料収集及び試料分析
集団遺伝	田中洋之	研修	2005/9/13～10/13	パナマ共和国	研究連絡
行動発現	三上章允	出張	2005/9/18～10/2	インドネシア共和国	サンプル採取・行動実験及び研究打ち合わせ
器官調節	林基治	出張	2005/9/20～9/28	ドイツ連邦共和国	研究打ち合わせ及びセミナー
社会構造	杉浦秀樹	研修	2005/9/21～9/28	アメリカ合衆国	ワークショップ参加・発表
系統発生	高井正成	出張	2005/9/24～10/10	英国 オランダ王国	化石動物骨の観察及び資料収集
形態進化	濱田穰	研修	2005/9/24～10/12	タイ王国・ベトナム社会主義共和国	カニクイザル調査・研究打ち合わせ・資料整理

所属	氏名	種別	期間	目的国	目的
形態進化	濱田稔	出張	2005/10/14 ~ 10/26	タイ王国	国際シンポジウム開催・発表・研究取りまとめ及び報告書作成
社会構造	大澤秀行	出張	2005/10/15 ~ 10/22	タイ王国	国際シンポジウム出席・発表及び研究連絡
センター	上野吉一	出張	2005/10/15 ~ 10/22	タイ王国	国際シンポジウム出席及び研究連絡
形態進化	遠藤秀紀	出張	2005/10/16 ~ 10/22	タイ王国	国際シンポジウム出席及び研究打ち合わせ・資料収集
器官調節	清水慶子	出張	2005/10/16 ~ 10/22	タイ王国	国際シンポジウム出席及び発表、研究連絡・試料採取
行動発現	三上章允	出張	2005/10/16 ~ 10/24	タイ王国	国際シンポジウム出席及び研究打ち合わせ・資料収集
形態進化	國松豊	出張	2005/10/16 ~ 11/20	タイ王国・オランダ王国・ドイツ連邦共和国・ギリシャ共和国	国際シンポジウム出席及び発表、資料収集、化石標本調査
集団遺伝	川本芳	出張	2005/10/16~11/5	タイ王国・バングラデシュ人民共和国・ブータン王国	国際シンポジウム出席・発表、資料収集・研究連絡、実験及びフィールド調査
生態機構	M.A.Huffman	研修	2005/10/16 ~ 10/22	タイ王国	国際シンポジウム参加
認知学習	松井智子	出張	2005/11/1~11/8	アメリカ合衆国	研究打ち合わせ及び学会出席・発表・資料収集
野外施設	渡邊邦夫	研修	2005/11/10 ~ 11/20	インドネシア共和国	研究連絡・野外調査
形態進化	遠藤秀紀	出張	2005/11/10 ~ 11/20	タイ王国・ベトナム社会主義共和国	研究打ち合わせ・会議出席及び野外調査
系統発生	高井正成	出張	2005/11/11~12/5	ミャンマー連邦共和国	発掘調査
器官調節	大石高生	出張	2005/11/12 ~ 11/17	アメリカ合衆国	北米神経科学大会参加・発表及び資料収集
器官調節	林基治	出張	2005/11/12 ~ 11/17	アメリカ合衆国	北米神経科学大会参加・発表及び資料収集
行動発現	三上章允	出張	2005/11/11 ~ 11/24	アメリカ合衆国・英国・ドイツ連邦共和国	北米神経科学大会参加・発表及び資料収集、HOPE 共同利用打ち合わせ
系統発生	茂原信生	出張	2005/11/14 ~ 11/20	ミャンマー連邦タイ王国	発掘調査・資料収集及び研究連絡
集団遺伝	田中洋之	出張	2005/11/27 ~ 12/14	マレーシア	シンポジウム参加・研究打ち合わせ、調査及び資料収集
器官調節	清水慶子	出張	2005/12/3~12/7	アメリカ合衆国	研究連絡
形態進化	國松豊	出張	2005/12/11 ~ 12/20	タイ王国	野外調査・研究打ち合わせ
形態進化	遠藤秀紀	研修	2005/12/21 ~ 12/23	台湾	研究打ち合わせ
形態進化	遠藤秀紀	出張	2006/1/14~1/21	タイ王国	標本資料調査

所属	氏名	種別	期間	目的国	目的
生態機構	M.A.Huffman	出張	2006/1/14～1/27	スリランカ民主社会主義共和国	研究連絡・資料収集・野外調査
遺伝子 情報	中村伸	研修	2006/1/16～1/18	大韓民国	韓国霊長類学会出席・発表・研究打ち合わせ
思考言語	松沢哲郎	出張	2006/1/21～1/29	イタリア共和国	ワークショップ参加・発表
系統発生	茂原信生	出張	2006/1/21～1/29	ドイツ連邦共和国	博物館所蔵の霊長類骨格標本の観察
形態進化	Suchinda Malaivijitnond	研修	2006/2/6～2/15	タイ王国	シンポジウム出席・発表及びマカクサンプルの調整・データ解析
系統発生	高井正成	出張	2006/2/8～2/21	ミャンマー連邦共和国	動物化石発掘調査
形態進化	濱田穰	出張	2006/2/8～2/15	タイ王国・ベトナム社会主義共和国	シンポジウム出席・発表。研究打ち合わせ・野外調査
遺伝子 情報	平井啓久	出張	2006/2/9～2/19	マレーシア	テナガザル類の生物多様性と生物地理学的解析
多様性	香田啓貴	出張	2006/2/9～3/4	マレーシア	テナガザル類の行動学的調査及び情報収集
保全研究	三上章允	出張	2006/2/9～2/22	インドネシア共和国	サンプル採取・行動実験及び研究打ち合わせ
行動発現					
系統発生	本郷一美	出張	2006/2/10～2/19	トルコ共和国	遺跡出土動物骨資料の同定と計測及び研究打ち合わせ
形態進化	遠藤秀紀	出張	2006/2/17～2/25	マダガスカル共和国	マダガスカル産哺乳類の動物調査
集団遺伝	田中洋之	出張	2006/3/11～3/18	マレーシア	調査及び研究連絡
野外施設	渡邊邦夫	研修	2006/3/20～4/3	インドネシア共和国	野外調査
認知学習	正高信男	出張	2006/3/23～3/28	イタリア共和国	研究打ち合わせ
形態進化	濱田穰	出張	2006/3/26～3/30	中華人民共和国	調査及び研究連絡。シンポジウム出席・発表・資料収集

※センター：人類進化モデル研究センター

9. 非常勤講師

(理) 城石俊彦 (国立遺伝学研究所・教授)

「遺伝的多型性とミュータジェネシスに基づいたマウスゲノム機能解析」

2005年10月20日～10月21日

(理) 小野義正 (東京大学工学系研究科・特任教授)

「理系の英語発表法」

2005年11月24日～11月25日

(霊) 三浦慎悟 (新潟大学農学部附属フィールド科学教育研究センター・教授)

「野生動物管理における個体群生態学」

2005年12月15日～12月16日

(理) 杉田陽一 (独立行政法人産業技術総合研究所・主任研究員)

「大脳皮質における感覚情報処理」

2006年1月16日～1月17日

(理) 理学研究科 卒 (霊) 霊長類研究所 卒

10. リサーチ・アシスタント (R・A)

氏名	採用期間
木場礼子	2005年6月1日～2006年3月31日
Jeong A-Ram	2005年6月1日～2006年3月31日
託見健	2005年6月1日～2006年3月31日
東濃篤徳	2005年6月1日～2006年3月31日
権田絵里	2005年6月1日～2006年3月31日
山田彩	2005年6月1日～2006年3月31日

11. ティーチング・アシスタント (T・A)

霊長類学系科目に係るもの

氏名	採用期間
郷もえ	2005年6月1日～2006年3月31日
半田高史	2005年6月1日～2006年3月31日
鈴木真理子	2005年6月1日～2006年3月31日
山本真也	2005年6月1日～2006年3月31日

全学共通科目に係るもの (霊長類学のすすめ)

氏名	採用期間
川合静	2005年6月1日～2005年7月31日
村田貴朗	2005年6月1日～2005年7月31日